



2014年 東洋経済新報社 CSR調査・評価説明会



# 東洋経済CSR調査・ CSR評価、ランキングのご説明

2014年5月27日（火）

株式会社東洋経済新報社

CSRデータ開発チーム、財務・企業評価チーム

岸本吉浩

# 本日のご説明内容

---

- 昨年の説明会アンケートからいくつかご紹介
- CSR企業ランキング報告書の説明
- CSR調査の概要
- CSR評価、CSR企業ランキングの概要
- 評価の作成手順、特徴など
- 第10回CSR調査について
- 質疑応答

# 昨年アンケートご要望



- 海外の調査機関と同レベルの開示
- 『CSR企業総覧』掲載ページの送付
- 評価の全体像がわかる説明
- メーカー有利の評価を改善
- 回答の対象を明確に
- GRIガイドラインとの対照表
- ベストプラクティスの紹介
- 締め切りをもう少し遅く
- ランキングで金融機関の扱いが少なすぎる
- その他

# 最近の取り組み・活動



- 『CSR企業総覧』掲載ページのメールでの送付開始
- 電子書籍『JAPAN CSR Data eBook2013』（英語版）発行
- 東洋経済CSRセミナーの開催  
第1回は4月16日に開催。第2回は7月9日の予定。
- 日本橋CSR研究会の開催  
1月から毎月開催。

# ランキング報告書



- 4月1日に電子メールご登録者に送付
- CSR企業ランキングのすべての得点をご紹介
- 2013年版から作成
- サンプルを使って少しご説明

※ご希望の場合は  
メールでご連絡ください

## 第8回CSR企業ランキング報告書



東洋経済新報社CSRデータ開発チーム、財務・企業評価チーム  
2014年4月1日

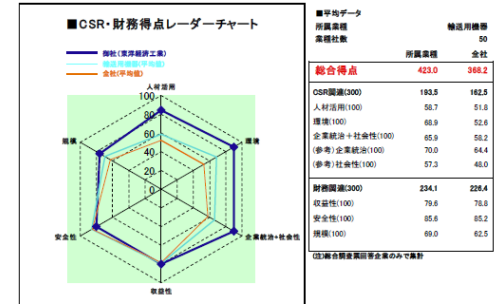
コード 009999 所属業種 輸送用機器

御社名: 東洋経済工業

■総合・業種内順位、総合得点			
総合順位	112 (昨年 154)		総合得点: 500.0
所属業種内順位	44 (輸送用機器)		
金融・商社	—	(注) 総合順位は金融、売上増企業を軸に、所属業種内順位は売上増企業を軸に、売上増・順位は金融を軸に	
米上場	—		

■CSR・財務部門別得点、順位			
CSR総得点(300)	264.5 (38位)	財務総得点(300)	235.5 (145位)
人材活用(100)	84.5 (38位)	収益性(100)	80.0
環境(100)	90.0 (22位)	安全性(100)	80.0
企業統治+社会性(100)	90.0 (34位)	規模(100)	75.5
(参考) 企業統治(100)	83.3 (29位)		
(参考) 社会性(100)	95.5 (54位)		

(注)121社が対象。財務など一部社数異なる場合がある。各部門名の後のカッコ内は順位。得点の後のカッコ内は順位。財務得点の順位は合計得点の比。



# 2014年度ランキング平均点



- CSR企業ランキング上位200社の平均が500点を突破
- 財務得点も上昇

(各得点)

	2012年	2013年	2014年
CSR上位200	481.5	484.0	500.9
CSR上位700	404.0	403.6	421.1
財務上位200	241.5	239.4	243.9
財務上位700	228.9	225.2	230.5

# 考えられる理由

---

- 全体的なレベル上昇
- 幅広い取り組みに加え数値が上がってきている
- 評価項目の基準を厳しくしたことも影響
- 私たちの調査を研究されている

# 『CSR企業総覧』 2014年版

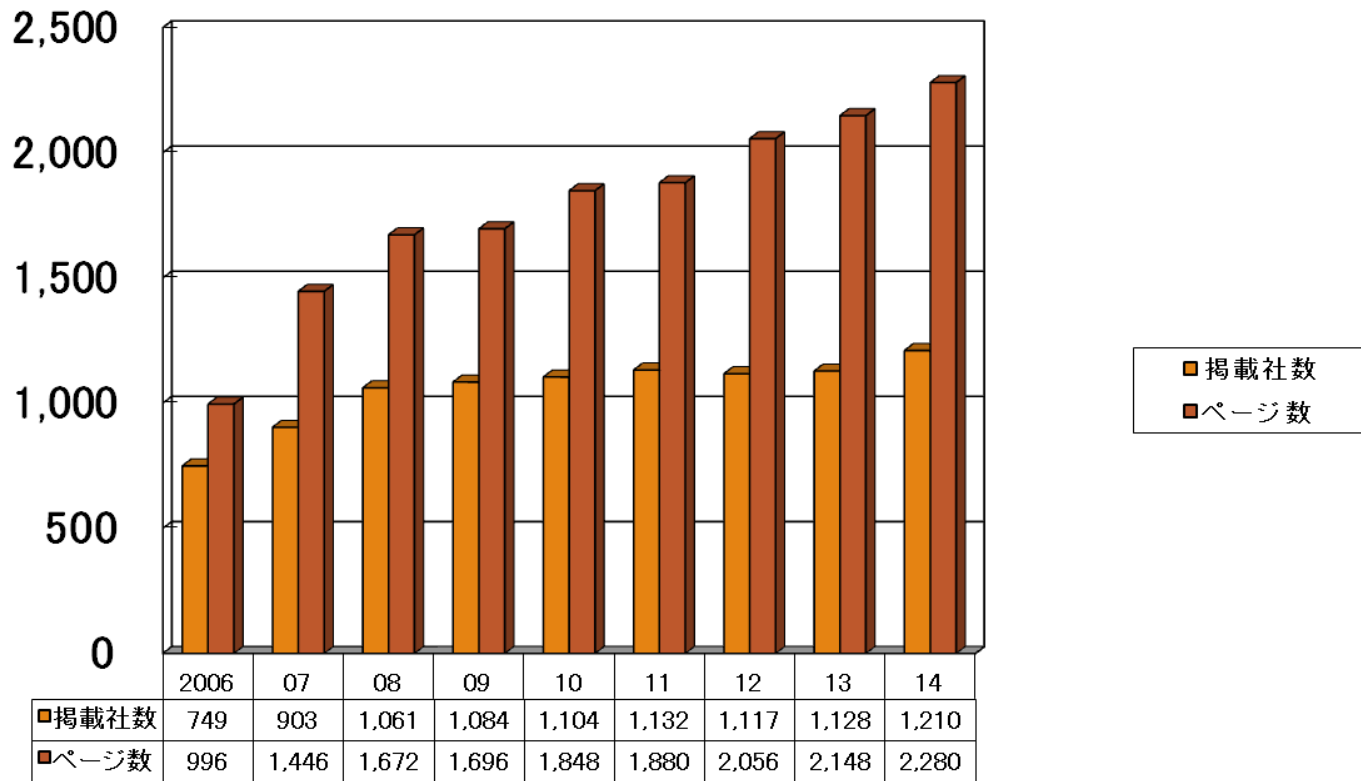


- 発売：2013年11月
- 掲載：1210社
- CSR調査に『会社四季報』、  
『役員四季報』などのデータを加えて発行
- 掲載データ  
会社基本データ、CSR&財務評価・格付け、CSR全般、ガバナンス・法令順守・内部統制、雇用・人材活用、消費者・取引先対応、社会貢献、企業と政治の関わり、環境





# 『CSR企業総覧』 掲載社数とページ数の推移



# 東洋経済CSRプロジェクト



- 東洋経済新報社110周年記念事業（2005年）として開始

## 目的

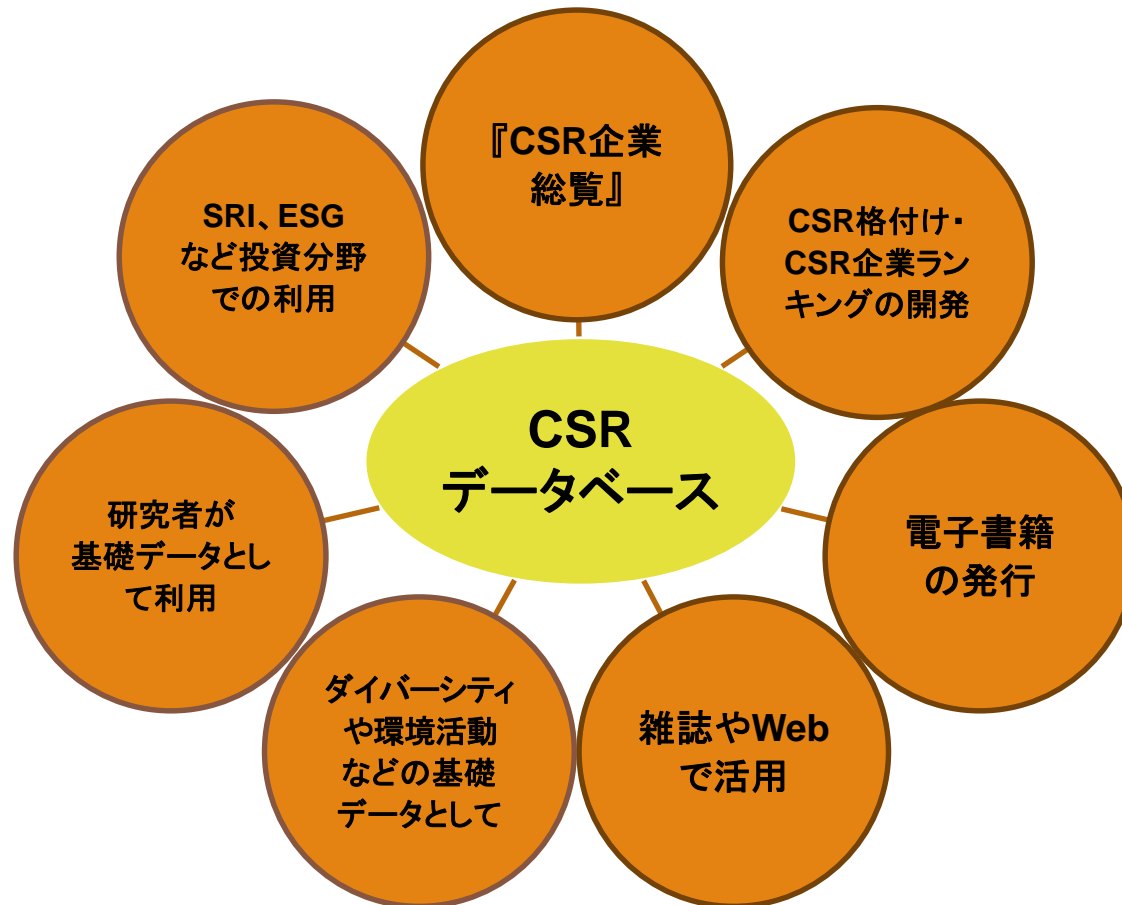
- 日本のCSR情報を集めて広く社会に提供する
- この情報を基に日本企業の皆様とともにCSRについて考えていく

⇒プロジェクトチームを設置

# 開始時のミッション

1. CSR調査を行いCSRのデータベースを構築
2. CSRの基礎情報を提供（市場経済のインフラ）
3. 定量的評価手法の開発  
（財務面とCSR面で総合評価を行う）
4. 表彰制度などの実施
5. 雑誌、書籍などの発行
6. その他のビジネス展開

# CSRデータベースが中心



# CSRプロジェクトチーム



CSRデータ開発チーム	CSR調査を実施。調査票の作成、編集、入力、データベース化などを行う
財務・企業評価チーム	CSR評価、財務評価、CSR企業ランキングを作成。アドバイザーは明治大学副学長山本昌弘先生
『CSR企業総覧』編集部	データベースになった情報を本にする。DTPなども行う
電子書籍開発チーム	今後の情報発信の中心になると考えている

# 東洋経済CSR調査の特徴



- 中立的な立場で調査を実施
- 調査したデータはすべて公開  
『CSR企業総覧』、電子書籍、Webなど
- 業種、規模に関わらず同じ調査票
- 雇用・人材活用関連のデータがやや多い
- 環境も重視
- CSR評価、ランキングは公開しているデータのみで行う

# CSR調査票の構成

---

1. 雇用・人材活用編

2. CSR全般・社会貢献・内部統制編

3. 環境編

**業種・規模に関わらず共通の調査票**

# CSR調査項目の分類

1. 日本で一般的にCSRと考えられている項目

2. 新しい動きに関する項目  
プロボノ、紛争鉱物、内部通報（告発）件数、LGBT、  
BOPなど。

3. 各企業の実態を知るための項目



# 東洋経済の考えるCSR



- 「信頼される会社」になるための活動がCSR
- 誰に信頼されるか？  
株主、顧客、取引先、従業員、地域、メディア、海外、・・・
- 「信頼される会社」であれば少々の問題も解決できる
- 長期的に企業価値が高まる
- 「信頼される会社」になるためには、各社が理想の「信頼される会社」を想定し、それを目指すという意識作り、体制作りが重要
- CSRは各社が考える「信頼される会社」になるための活動

# ルール化が進むCSR



- 
- ISO26000、統合報告、女性比率、各国の環境法令、紛争鉱物、・・・
  - 国内でも女性比率、環境情報、他
  - グローバルで「よい会社像」が統一される動き

# 情報公開が求められる

- CSR（報告書）の範疇に入る情報の公開が求められるようになってきた
- これ以外のデータも公開要求が強まるのでは？
- 社会的によいと考えられるデータの公開
- 上場企業を中心によりオープンな会社が求められている

⇒ 「本業でCSR」といったソーシャルビジネス的な活動とは異なる

# 本業での社会貢献の動き



- 
- CSV（クリエイティング・シェアード・バリュー）
  - 最近、少し否定的な声も増えてきている
  - ソーシャル・グッド的な活動

# 最近のCSRの動き

---

1. 本業と関連する事業で社会課題の解決
2. 本業で発生する負の面の減少への活動
3. 大手や有名だから一定の社会貢献は当然
4. その他の企業情報としてCSR関連情報の開示を求める

# CSR評価作成の目的

---

- 定量評価による企業評価の仕組みを作る  
⇒財務評価とあわせた企業の総合評価
- 「信頼される会社」をデータを使って見つける  
⇒株式投資、就職などに使える評価
- 各社のCSR活動を見る際の参考情報として使う

# CSR調査と評価の回数、 年度について



- CSR評価は第2回調査から開始  
第1回CSR企業ランキング（第2回調査データ使用）
- 調査年のデータは秋に『CSR企業総覧』として発行（最近は調査年の11月）
- 2013年第9回調査  
『CSR企業総覧』2014年版（発行2013年11月）  
第8回CSR企業ランキング2014年版  
（発表2014年3月）

# CSR評価の概要

- 財務・企業評価チームが作成
- 評価は調査票の回答データのみ
- 人材活用、環境、企業統治、社会性の4分野で評価
- 特定分野だけでなく幅広いデータで評価
- 定量評価のみ、加点方式
- 方針の有無、取り組み、成果（数値項目）で評価情報の把握、開示姿勢なども重視。



# CSR評価スケジュール

月	内容
7月	CSR評価項目の検討開始
8月	評価モデルの作成
9月	300社程度のデータで仮作成 評価モデルの最終決定 財務評価と比較
10月	モデルの最終検証 CSRデータ完成後に格付けデータを作成
11月	格付けと各社掲載内容を最終確認
12月～1月	CSR企業ランキングの準備 (微調整が必要な場合あり)
2月～3月	ランキング関連記事、図表作成など

# CSR評価項目2014年版



## 人材活用

1.女性社員比率、2.離職者状況、3.残業時間、4.外国人管理職の有無、5.女性管理職比率、6.女性部長職以上比率、7.女性役員の有無、8.ダイバーシティ推進の基本理念、9.ダイバーシティ尊重の経営方針、10.多様な人材登用部署、11.障害者雇用率（実績）、12.障害者雇用率の目標値、13.65歳までの雇用、14.LGBTへの対応、15.有給休暇取得率、16.産休期間、17.産休取得者、18.育児休業取得者、19.男性の育児休業取得者、20.配偶者の出産休暇制度、21.介護休業取得者、22.看護休暇・介護休暇、23.退職した社員の再雇用制度、24.ユニークな両立支援制度、25.勤務形態の柔軟化に関する諸制度、26.従業員のインセンティブを高めるための諸制度、27.労働安全衛生マネジメントシステム、28.労働安全衛生分野の表彰歴、29.労働災害発生率、30.人権尊重等の方針、31.人権尊重等の取り組み、32.中核的労働基準を尊重した経営、33.中核的労働基準4分野の対応状況、34.従業員の評価基準の公開、35.能力・評価結果の本人への公開、36.従業員の満足度調査、37.新卒入社者の定着度、38.発生した労働問題の開示

## 環境

1.環境担当部署の有無、2.環境担当役員の有無、3.同役員の担当職域、4.環境方針文書の有無、5.環境会計の有無、6.同会計における費用と効果の把握状況、7.同会計の公開状況、8.環境監査の実施状況、9.ISO14001取得体制、10.ISO14001取得率（国内）、11.ISO14001取得率（海外）、12.グリーン購入体制、13.事務用品等のグリーン購入比率、14.原材料のグリーン調達、15.環境ラベリング、16.土壌・地下水の汚染状況把握、17.環境関連法令違反の有無、18.環境問題を引き起こす事故・汚染の有無、19.CO2排出量等削減への中期計画の有無、20.スコープ3、21.2012年度の環境目標・実績、22.気候変動への対応の取り組み、23.環境関連の表彰歴、24.環境ビジネスへの取り組み、25.生物多様性保全への取り組み、26.生物多様性保全プロジェクトへの支出額

## 企業統治

1.CSR活動のマテリアリティ設定、2.ステークホルダー・エンゲージメント、3.活動報告の第三者の関与、4.CSR担当部署の有無、5.CSR担当役員の有無、6.同役員の担当職域、7.CSR方針の文書化の有無、8.IR担当部署、9.法令順守関連部署、10.国内外のCSR関連基準への参加等、11.内部監査部門の有無、12.内部告発窓口（社内・社外）設置、13.内部告発者の権利保護に関する規定制定、14.内部通報・内部告発、15.公正取引委員会など関係官庁からの排除勧告、16.不祥事などによる操業・営業停止、17.コンプライアンスに関わる事件・事故での刑事告発、18.汚職・贈収賄防止の方針、19.政治献金等の開示、20.内部統制委員会の設置、21.内部統制の評価、22.情報システムに関するセキュリティポリシーの有無、23.情報システムのセキュリティに関する内部監査の状況、24.情報システムのセキュリティに関する外部監査の状況、25.プライバシー・ポリシーの有無、26.リスクマネジメント・クライシスマネジメントの体制、27.リスクマネジメント・クライシスマネジメントに関する基本方針、28.リスクマネジメント・クライシスマネジメントに関する対応マニュアルの有無、29.リスクマネジメント・クライシスマネジメント体制の責任者、30.BCM構築、31.BCP策定、32.リスクマネジメント・クライシスマネジメントの取り組み状況、33.企業倫理方針の文書化・公開、34.倫理行動規定・規範・マニュアルの有無

## 社会性

1.消費者対応部署の有無、2.社会貢献担当部署の有無、3.商品・サービスの安全性・安全体制に関する部署の有無、4.社会貢献活動支出額、5.NPO・NGO等との連携、6.ESG情報の開示、7.投資家・ESG機関との対話、8.SRIインデックス・SRIファンド・エコファンド等への組み入れ状況、9.消費者からのクレーム等への対応マニュアルの有無、10.同クレームのデータベースの有無、11.ISO9000Sの取得状況（国内）、12.ISO9000Sの取得状況（海外）、13.ISO9000S以外の品質管理体制、14.地域社会参加活動実績、15.教育・学術支援活動実績、16.文化・芸術・スポーツ活動実績、17.国際交流活動実績、18.CSR調達への取り組み状況、19.紛争鉱物の対応、20.ボランティア休暇、21.ボランティア休職、22.マッチング・ギフト、23.BOPビジネスの取り組み、24.海外でのCSR活動、25.プロボノ支援、26.CSR関連の表彰歴、27.東日本大震災復興支援

# 評価項目の選び方

---

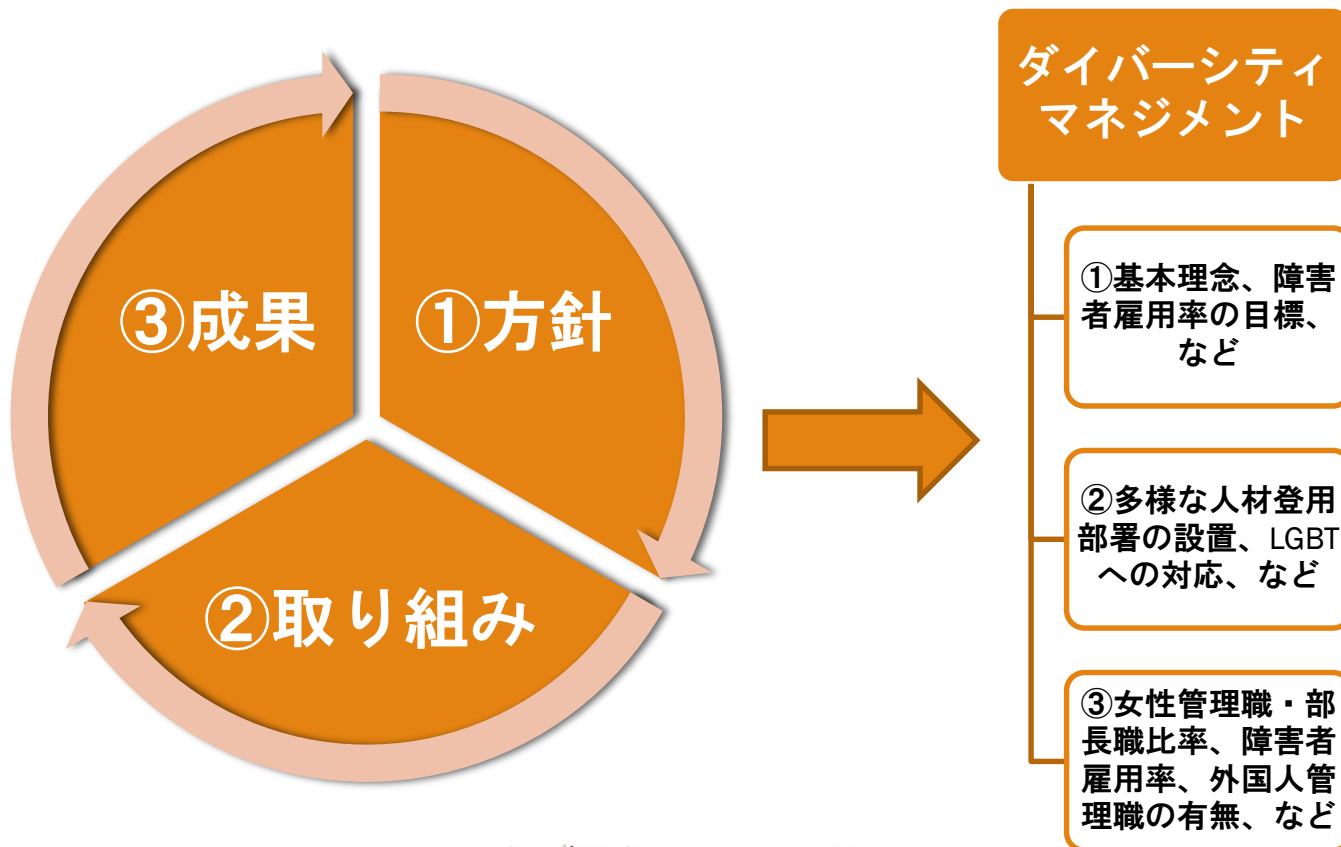
- 特定分野に偏らない評価とするため幅広く選定
- 回答率が一定以上の項目を使用
- 評価項目はできるだけ残す（増える一方）

# CSR評価の仕組み



- 得点は加点方式でマイナスになることはない
- 開示ポイントを設定している項目が多い。未回答はゼロになる
- 自由記入の評価項目の多くは何らかの活動を行っていただければ得点になる  
⇒活動内容は各社がそれぞれ考えて行うべきもの
- キーワードを設定してポイントを付与する仕組みを一部導入

# 評価項目は3つに分類



目標としている

# 評価項目の各得点

- 各評価項目の最大得点は2～3点がほとんど  
5点は3項目のみ。
- 伸び率は使っていない。現在の実力を評価する
- 数値項目は細かく分けたルールになっていることが多い（人数と比率を組み合わせるなど）
- 数値項目は全社の平均値などを参考に得点ルールの見直しを行っている  
ex. 障害者雇用率、女性部長職比率  
⇒全体的に厳しくした
- 文字項目は比較的簡単なルール

# 評価の具体例1

---

- **女性管理職比率**  
A%以上：3点  
B%以上：2点  
1%以上：1点
- **新卒入社者の定着度（3年後定着率）**  
95%以上：3点  
他
- **勤務形態の柔軟化に関する諸制度**  
一つの制度：1点  
ただし、上限を設けている。

# 評価の具体例2

---

- 環境法令違反の有無  
2年連続ゼロ：3点  
（回答ありの場合は1点）
- 内部通報・内部告発の状況  
2年連続数値回答あり：3点
- 地域社会参加活動実績  
何らかの活動実施（回答あり）：3点
- 東日本大震災復興支援  
行っている：3点  
（昔行っていた：1点）



# 評価でよくある質問

- 女性比率はメーカーは低いので不利  
⇒有給休暇などはメーカーは高いので全体で見るとそうでもない。
- 非製造業は環境得点が上がらない  
⇒回答すれば、ポイントとなる項目もいくつもある。ある程度は得点できるようになっている。
- 昨年と同じ回答なのに順位が下がった  
⇒トップの基礎得点で変わる。

# 評価作成の流れ（CSR）



1. CSRデータが完成
2. 基礎得点を計算
3. 昨年の分布を参考にCSR格付けを作成
4. トップの得点を100点、最低点を20点に調整（0点は除く）
5. ランキングでは企業統治、社会性は合計得点を使用
6. ランキングデータ完成

# CSR評価：基礎得点満点 ＋最高得点（2014年）



	満点(項目数)	最高得点 (達成率)	企業名
人材活用	87点(38項目)	76点 (87.4%)	富士フイルム HD
環境	71点(26項目)	69点 (97.2%)	コニカミノルタ、ブリヂ ストン、ダイキン工業、 東芝、トヨタ自動車
企業統治	83点(34項目)	83点 (100%)	セブン&アイH D、帝人
社会性	75点(27項目)	75点 (100%)	ソニー

# 企業統治＋社会性の基礎得点



	満点(項目数)	最高得点 (達成率)	企業名
企業統治+ 社会性	158点 (61項目)	153点 (96.8%)	帝人

調査票は「CSR全般・社会  
貢献・内部統制等編」

# ランキングはトップの得点 が基準に



- トップの基礎得点が基準になる
- 基礎得点の最高得点は毎年変化している
- 年々レベルは上がっている
- トップの得点が上昇すると昨年と同じ得点では評価は下がる

# 得点はトップの〇%の達成率

- 得点は20～100点の範囲
- 100点は必ずしも満点ではなく最高得点
- 100点未満はトップに対して〇%の達成度と見ることができる  
(一部下位は異なる)

例：人材活用 A社100点、B社87.3点  
B社はA社の87.3%の達成度

# 財務評価作成の流れ

1. 評価項目の3期平均値を作成（一部例外あり）
2. 主成分分析を使い第1主成分を偏差値化
3. 最高1000点、最低500点に調整
4. 昨年の分布を参考に格付けを作成
5. 1000点満点とは別に100点満点のデータも作成
6. 完成（前者は新・企業カランキング、後者はCSR企業ランキングに使用）

# CSR企業ランキングの特徴



- CSRと財務を合計して作成
- CSRは人材活用、環境、企業統治＋社会性の3つで評価
- 財務得点の影響が大きい
- 幅広く活動する大企業が高得点になりやすい
- 環境分野に強い電機、自動車など製造業が高得点の傾向
- 非製造業、中堅企業は全体的に得点は低い

⇒別紙集計表参照



# CSR企業ランキングの種類



総合ランキング	絶対レベルでの位置づけがわかる
部門別ランキング	各部門別の位置づけがわかる
業種別ランキング	業種内での位置づけがわかる。業種上位は業界を代表する会社と考えている
成長率ランキング	得点の伸び率で成長を判断する
その他	規模別など検討中

# CSR企業ランキング・ 2014年ポイント

---



- 全体的に得点アップしている
- 人材活用の各項目の数値は上昇し、評価基準も一部修正
- 環境得点は製造業以外も得点アップ  
方針、取り組みで評価している項目が多いため。
- 財務得点が上がっている  
2011年～2013年の平均値のため。

# CSR企業ランキング・ 順位アップのポイント



- 各社が考えるCSR活動をさらに進める
- 財務力をつける  
特に大企業は収益性で差がつきやすい。
- 調査票の質問にはできるだけ回答する
- 回答はできるだけあてはまるものを選ぶ
- 注記は基本的に評価していない

# CSR企業ランキングの課題



- 
- 金融機関の財務評価
  - 方針、取り組みの次の成果部分の評価項目を拡充
  - 特徴のある企業を評価する方法の模索  
成長率以外にCSR評価の積み上げ方式の見直しなども？

# CSRデータ、CSR評価 データの利用先



- 大学などのアカデミック分野
- SRI調査機関など
- モーニングスター社会的責任投資株価指数  
(MS-SRIインデックス)  
2011年6月より調査・評価業務を担当。  
格付けデータをご提供し、そのデータを基に150銘柄を選定  
(詳細はMSさんにお聞きください)  
<http://www.morningstar.co.jp/sri/>
- その他

# フィードバックについて



1. 今回のような定期説明会の開催（1年間に1回）
2. 『CSR企業総覧』の掲載ページのメール送付
3. CSR企業ランキング発表後に報告書のメール送付
4. 集計表冊子の送付

※これ以外は今後の課題として検討します

# Webで公開している情報



東洋経済オンライン

<http://toyokeizai.net/>

東洋経済CSRオンライン

<http://www.toyokeizai.net/csr/>



## CSR企業ランキング

- ➔ 有給休暇取得率
- ➔ 新・企業力
- ➔ 女性部長数
- ➔ 多様性

トピック ランキング

### Ranking

最新記事

**1位富士ゼロックス、4位サントリー、7位日本IBM**  
最新「CSR企業ランキング」未上場トップ20

2014年9月24日

今回は未上場企業のCSR企業ランキング上位20社を紹介する。ランキングは財務データを除き作成した。1位は富士ゼロックスで、総合得点273.4点。部門別には、人材活用…

1位日本興産、三菱UFJは4位。地域で選ばれる企業

最新「CSR企業ランキング」金融トップ30

2014年9月19日

信頼される会社を、事業のデータから見つけるCSR…

人材活用は富士フイルム、業績はダイキンなど首位

最新「CSR企業ランキング」部門別トップ30

2014年9月18日

信頼される会社をデータから見つけるCSR企業ラン…

小売はセブン、商社三井物産が首位に

最新「CSR企業ランキング」業種別トップ20

2014年9月14日

CSR企業総合ランキングは絶対的基準が大きい。C…

トコセが初のトップ、2位は富士、3位日産

最新「CSR企業ランキング」トップ700

2014年9月12日

「よし!会社とは何か?」という定義づけには多くの見…

新卒採用「新卒3年後定着率」ランキング

新入社員に優しい「ホワイト企業」トップ300

2014年9月10日

就職の時代、資格を基にした専門職の人数が増え…

CSR 東洋経済CSRオンライン

TOYOKEIZAI

English

■東洋経済CSR調査

- 第9回CSR調査 (2013年調査)
- 第8回CSR調査 (2012年調査)
- 第7回CSR調査 (2011年調査)

■CSR企業ランキング

- 第9回CSR企業ランキング (使用データ:2013年第9回CSR調査) [速報・調査結果](#)で発表
- 第7回CSR企業ランキング (使用データ:2012年第8回CSR調査)
- 第6回CSR企業ランキング (使用データ:2011年第7回CSR調査)
- 第4回CSR企業ランキング (使用データ:2010年第6回CSR調査)
- 第3回CSR企業ランキング (使用データ:2009年第5回CSR調査)
- 第1回CSR企業ランキング (使用データ:2008年第4回CSR調査)

※CSR企業ランキング(人材活用、環境、企業統治+社会性、財務の合計)上位700社、CSR合計得点(人材活用、環境、企業統治+社会性の合計)上位700社までの得点データ(各得点、社名、業種、コード等)は販売しております。詳しくは[弊社データベース・サービス窓口](#)までお問い合わせください

■CSR企業総覧2014年版

- [CSR企業総覧2014年版](#)
- [CSR企業総覧2014年版 調査の説明・データの使い方\(PDF\)](#)
- [CSR企業総覧2014年版 発行ナーズ\(PDF\)](#)

# 第10回CSR調査のスケジュール



- **調査票発送**：2014年6月最終週  
昨年のPDF調査票ご回答企業には後日、PDFファイルも送付。  
7月4～7日頃を予定。
- **締め切り予定日**：8月8日（金）
- **『CSR企業総覧』発売**：11月下旬
- **格付け版電子書籍公開**：12月下旬
- **その他電子書籍**：2015年1月以降
- **CSR企業ランキング発表**：未定



# 第10回調査票

---

- 昨年とほぼ同じ
- 他は未定

# 2013年調査の作業スケジュール

年月	内容
2013年4月	調査票の検討開始
5月	説明会。調査項目を決定。調査票を作成開始
6月	調査票発送
7月	評価の基本方針決定。調査開始前の準備
8月	締め切り。編集開始
11月	『CSR企業総覧』発売 集計編作成 電子書籍などの準備開始
12月	各種ランキング発表開始
2014年1月～2月	電子書籍の発行。CSR企業ランキングの準備
3月	CSR企業ランキングの発表（『週刊東洋経済』）
4月	CSR企業ランキング報告書送付
5月	東洋経済オンラインでCSR企業ランキング発表

# 次回調査での目標・予定



- 各企業用の確認用Webサイトを開設（冬までに）  
CSR企業ランキング報告書や掲載ページを閲覧できるようにする。将来はPDF調査票やWeb調査も行えるようにしたい。  
⇒ただし、今年はテスト試行。  
モニター企業を最大50社程度募集予定。
- CSR企業ランキングの見方などをまとめた単行本を6月中旬に発行予定
- 各種ランキングを収録した電子書籍を発行予定
- CSRと企業価値の関係について分析を進める
- 来年は関西などでの説明会の開催を検討

# CSR企業ランキング 『週刊東洋経済』掲載号



第1回	2007年5月19日号
第2回	2008年5月17日号
第3回	2009年5月16日号
第4回	2010年5月15日号
第5回	2011年2月26日号
第6回	2012年3月17日号
第7回	2013年3月30日号
第8回	2014年4月5日号



# 調査、各種情報



- 
- 東洋経済CSRオンライン（CSR調査情報サイト）  
<http://www.toyokeizai.net/csr/>

※今後とも東洋経済新報社CSR調査・評価をよろしくお願いいたします